

社会とのつながりや参加の機会をつくる

～「就職活動応援金付職場体験事業(プチバイト事業)」を通じた参加支援～

4月から8月末までの利用状況

■プチバイト

件数 33 ・金額 480,000 円

■就職支度金

件数 12 ・金額 113,206 円

利用者の平均年齢

■プチバイト：39 歳

■就職支度金：49 歳

8月現在の受入登録事業所

■プチバイト 226 事業所

製造業、建設業、運送業、小売業、清掃業、サービス業、農業、社会福祉施設、行政機関など

支援の流れ

意見書

長野県社会福祉協議会

申請書・報告書

“まいさぼ”
福祉事務所

相談

相談者

長野県社会福祉法人
経営者協議会

登録

応援金給付

協賛金

支度金給付

協力事業所

(福祉、製造、サービス業等)

職場
体験

一般就労等へ
ステップアップ

調整

参加支援／
社会とのつながりを築く
第一歩として

前号でも取り上げた「地域共生社会推進検討会」の中間とりまとめでは、今後、「一人ひとりの生が尊重され、複雑・多様な問題を抱えながらも、社会との多様な関わりを基礎として自律的な生を継続していくことができるように支援する機能の強化」が求められるとしました。

また、参加支援（社会とのつながりや参加の支援）を包括的な支援体制の整備に必要な機能の一つとして、「本人・世帯と地域とのつながりや関係性の構築を中心に考え、場合によっては地域や参加の機会を作る主体（例えば、就労支援であれば、地域の中小企業など）への支援も行っていく必要」があり、「孤立した状態から社会参加ができるようになるまでには多くの隔たりが存在しているため、まず社会とのつながりを築く第一歩として、本人の生きがい・やりがいになる活動ができる場の提供が必要」とまとめています。

様々な事業所の協力を得て

さて長野県では、2015年（平成27年）から、地域で生活困窮や社会的孤立状態にある方々を独自に支援する事業として「信州あんしんセーフティネット事業」を実施してきました。これは、県内の社会福祉法人で構成する社会福祉法人経営者協議会が主体となり、生活困窮者自立支援機関（「まいさぼ」）と連携しながら取り組んでいる事業です。

ここでは、様々な地域や分野の事業所に職場体験の受け入れをお願いしながら、長期離職により就業への自信を無くしている方、ひきもり状態から抜け出せず社会との接点がなくなってしまうという方などに、本人の主体的な関わりを促しながら社会とのつながりや就労への意欲を喚起することを目指しています。

取材を通じて

今回は、この事業の利用者や受け入れ事業所の取材を通じて、参加の機会を作っていくことの重要性を改めて確認したいと思います。

プチバイト取材

取材先

【受け入れ企業】 合同会社MI化成 様

【利用者】 Hさん (23歳)、Mさん (19歳) 姉妹



利用者のお話から

まいさぼとの出会い

1年前に上田に引っ越し、仕事を探していたところ他機関からまいさぼを紹介されて繋がりました。

二人には発達障がいがあり、人と話すことが苦手だったので、まずはまいさぼ上田で実施しているコミュニケーション講座や自分磨き講座に参加しました。この講座はまいさぼ上田が独自で実施しており、10人以下の少人数制で楽しみながら人と関わる力を付けていくものです。「はじめは緊張しましたが自分と似た境遇の方も多く、リラックスして参加することができました」。

その後も就労準備支援事業を利用しながら就職に向けて準備をしていましたが、生活費が必要となり、自らプチバイトの体験を申し出ました。二人一緒に体験ができる所、一人で黙々と作業ができる所を希望し、「合同会社MI化成」で実施することになりました。

就労体験をとおして

合同会社MI化成ではプラスチック部品の検品作業を行いました。



Hさん

「以前接客業のアルバイトをしていたときは覚えることが多く、自分には向いていないと思いました。今回は作業内容が決まっていたのですぐに慣れることができました。」「今回二人一緒にプチバイトを行いました。一人では最後まで続けられなかったと思います。途中で辞めずに続けられたことが自信になりました」。

「初日は緊張しましたが、職員の方が『わからなければ何でも聞いて』と言ってくださったので聞きやすかったです。また、作業場所を別室に用意して下さったり色々配慮していただき働きやすかったです。」「プチバイトをとおして最初の頃より人見知りをしなくなったと思います。まいさぼの職員さんも気さくで話しやすいです」。



Mさん

今後について

Mさんはプチバイトをとおして就労を前向きに考えられるようになり、その後以前から興味があった子ども関係の仕事にアルバイトが決まり、2か月経った現在も週三日の勤務を続けています。「だんだん慣れてきたので、別の児童クラブでもバイトをして掛け持ちできればと思っています」。

Hさんは就労準備支援事業を利用しながら自分にどうい

う向いているのか、ゆっくり探し、少しずつ就労に向けて進んでいきたいと考えています。

現在もまいさぼ上田で実施しているコミュニケーション・トレーニング講座(全20回:就労準備支援事業に位置付け)に参加している二人。プチバイトでの経験が自信になり、今後について前向きに考えられるようになりました。

まいさぼより

最初は二人の仲が良すぎて他の人と関わることを拒否している様子でしたが、様々な講座やプチバイトをとおして社交性が出てきたと感じます。Mさんのアルバイト先にはプチバイト後二人で見学に行きましたが、すぐにやりたいと言ったMさんに対し、Hさんは少し考えたいという反応でした。今まで何でも一緒だった二人ですが、自分の意志を持って物事を決められるようになったのはすごい成長だと感じます。

何事もそうですが、失敗することは悪いことではなく、小さな失敗は大きなけがの予防だと考えています。失敗しても構わない。ただ、失敗しても戻ってこれるところがあることが大切です。その中で少しずつステップアップしていければいいのではないかと思います。

お二人にとってまいさぼは「戻ってきてもいい安心できる場所」であり、その安心感が次のステップに向けて背中を押してくれているのだと感じました。

【プチバイトのメリット】

プチバイトは終了後すぐにお金が振り込まれるので、本人のモチベーションに繋がることがとても大きいと思います。また、期間が25時間までと決められているので、「終わりが見えている」ということもハードルが低くて挑戦しやすいと思います。さらに一日3、4時間の実施であれば昼食を挟まないため、お昼時の雑談が苦手な方にはありがたいですね。



プチバイト取材

受入れ企業のお話から

【受け入れ先担当】小林 早苗さん

出会いのきっかけ

もともと上田市内のB型事業所に勤めていた職員で新たなB型事業所を立ち上げようと独立。しかし土地的に認可がおりず、現在は合同会社として運営しています。プラスチック部品の成形、検品、出荷作業と箱折り作業を行っています。今までにプチバイトとして5名を受入れました。従業員が8名という小規模な事業所なので、人と関わることが苦手な方でも働きやすいよう意識しています。プチバイトでは本人の特性に応じてプラスチック部品の検品か箱折り作業を行っていただいています。25時間という限られた時間の中でできることを考えてお願いしています。HさんとMさんにはプラスチック部品の検品作業を行っていただきました。

受け入れてみて

二人一緒に受入れでしたので、向かい合わせに座ってもらい、お互いの作業が見える形にしました。わからないところはしっかり確認してくれて、とてもよくやってくれました。プチバイト開始前に家からどのくらいかかるのか下見もしていたようで、遅刻することはありませんでした。今まで受け入れた方皆さんに共通することですが、皆さんとても責任感があり、仕事に向かう姿勢は大変まじめだと感じました。中には途中で辞めてしまう方もいますが、そのときは職員の中で、どう接したらよかったのか、もう少し何かできなかったのかを話し合いました。専門知識がない分関わり方に迷いはありますが、まいさぼとも共有しながら私たちも勉強させてもらっています。関わる時には、①責め立てる言い方はしない②個人的なことを聞きすぎない③できたことを褒めていく④良さを認めていくことを意識しています。ただ、人それぞれ特性は違うのでその方に合わせて関わり方を考えています。仕事を継続できるように企業側の工夫も大切だと思います。

今後の想い

みなさん仕事が嫌な訳ではなく、一歩踏み出すきっかけがなかったのだと思います。仕事をしてお金を頂く喜びや仕事をとおして誰かの役に立つ嬉しさを、プチバイトをとおして感じてもらいたい。これからもそのお手伝いができればと思います。



作業場の様子



小林さん



MI化成外観

地域共生社会の実現の先には、地域で不安なく生活を続けていくことができる「あんしん未来」があります。そのためにはそれぞれの機関や分野などを超えて、それぞれができることを持ち寄り連携の仕組みを創ることが必要となります。今回のプチバイト事業のように、多くの機関や分野の方が参画しながら、人と人をつなぎ合わせ、人と資源をつなぎ合わせ、資源と資源を組み合わせ、無い資源を創り出し、地域という共同体のポテンシャルを引き出しながら、提供できる者が提供できるものを提供し合うサポータータイプな実践を展開するために、今後、長野県社協が中核となり、官民が協働して新たなあんしんを創造していくためのプラットフォームの構築を目指していくこととしています。

あんしん未来創造事業について

支援事例集の発行にあたり、表紙絵を担当していただいたフェルミ君（仮名）は、“まいさぼ”の職場体験事業（以下プチバイト）がきっかけで一步步夢に向かっていきたいという思いを持つようになりました。

体験をとおしてできた社会との関わり、新たな繋がりが彼の背中を押してくれています。

ここではフェルミ君を受け入れてくれたカフェの方、そして本人のお話をご紹介します。

古民家カフェを 運営する Oさんの話



フェルミ君と出会ったきっかけは

フェルミ君との出会いは、“まいさぼ”を通じたプチバイトです。役場の職員さんからの紹介で“まいさぼ”とつながり、ちょうどカフェのオープンに向けて壁塗りを手伝ってくれる人を探していたので、プチバイトの受入れ事業所として登録をしました。

その後、3人の方が手伝いに来てくれ、そのうちの一人がフェルミ君でした。週1回程度、約1か月に渡り壁塗りをさせていただきました。

どのように関わったか

最初は私も一緒に壁塗りを手伝っていましたが、途中からはほとんど彼らに任せて見守っていました。フェルミ君はおとなしくコミュニケーションが苦手な印象でしたが、活動をしていくうちに笑顔で話をしている姿が見られたり、お昼を一緒に食べながら彼の好きな絵の話をしてくれたり、そのたびに新たな一面を見ることができました。

受け入れてみて

初めは「ちょっと人手がほしい」という思いで依頼をしましたが、彼の生き生きとしていく姿を見て、お願いしてよかったなと思いました。また彼らと関わるなかで、生活に困っている方や生きづらさを抱えている方が身近にもいることに気がしました。先日久しぶりに彼に会ったのですが、目を輝かせて夢を語る姿をみて、人ってこんなに変わるんだと驚きました。

今後の想い

このカフェはもともと地域の方が集える場として始め、カフェをとおして誰かの役に立てればという思いもありました。今回“まいさぼ”と繋がったことで彼らと出会うことができ、そして彼らの人生に少しでも役に立てたことが嬉しかったです。

今後、このカフェだけでなく気軽に集える場を増やしていきたいと考えています。また“まいさぼ”をとおして素敵な出会いがあることを楽しみにしています。



フェルミ君の話

“まいさぼ”との出会い

3年前、自分の進路に思い悩んでいた頃、「話を聴いてくれる場所があるよ!」と知人から教えてもらい、祖母と一緒にでかけて行ったところが“まいさぼ”でした。どんなところかもわからなかったけれども、まずは話を聞くだけ聞いてみようと思い、出かけてみました。行ってみたところ、相談員の方が体調のことや、仕事のことなど丁寧に聞いてくれました。週に一度“まいさぼ”に通うなかで、自分の思いを徐々に言葉にすることができ、気持ちの整理ができていったように思います。また、新たな思いに気づくこともできました。

就労体験をとおして

ある日相談員の方から「アルバイトしてみない?」と誘われ、古民家カフェで壁塗りの仕事をしました。自分のほかにも2人の方と一緒に作業をしました。自分と同じように困っている人がおり、“まいさぼ”にはいろんな方が関わっているのだと知りました。

これが人生で初めての就労でしたが、プチバイトのお金が相手先から自分の手元に入金されるため口座を開設したことも、働くという意識を持たせた一つのきっかけでした。

その後、自分と同じく絵が好きな方と壁塗りの仕事を通して知り合いました。絵の話や将来のことなどいろいろな話をするのができ、とても嬉しかったです。

可能性を広げてくれた“まいさぼ”

僕は小学生のときから絵を描くことが好きで、独学で勉強をしてきました。今後イラスト関係の仕事が出来ればと考えています。“まいさぼ”と関わるようになり、同じ絵の好きな方と知り合えたり、今回のような貴重な機会をいただくことができ、自分の世界が広がったと感じています。僕の生きる活力でもある「絵が好きだ」という気持ちに寄り添ってくれた“まいさぼ”のみなさんはじめ、今まで関わってくださったすべての方に感謝します。ありがとうございました。これからも一步步、夢に向かって進んでいきたいです。

“まいさぼ”からの メッセージ

地域に暮らす若者たちは、自分の生き方を模索しています。早期就労を目的とすることばかりでなく、プチバイト等を通じて、若者が地域の人と出会い、様々な発見をすること、さらにステップアップして就労に結びつくこと、その過程を支援者として大切にしていきたいと思っています。





支援前の状況

before

- ◎50代男性。無職。80代の母親と二人暮らし。
- ◎身体障害者手帳を所持。
- ◎幼少の頃より足が悪く養護学校へ通ったこともあるが、地元の中学、高校卒業。
- ◎本人は10年以上前に仕事を辞めてから働いておらず、母の介護のために母の年金で生活している。
- ◎本人が買い物に行き、料理している。
- ◎母親は重度の認知症であり、要介護状態。

企業等につながった経緯

まいさばから企業にプチバイトをお願いした。

生活課題

- ・母の介護サービスの利用を増やしたいが、収入が母の年金のみのため増やすことが難しい。
- ・食費が多く生活費を圧迫しており買い物の仕方を考える必要がある。
- ・本人の身体状況にあった就労先を探していく。
- ・耳の聞こえが悪いため理解できないこともあるが、発達障がいも疑われるため医療機関の受診が必要。

企業等の協力

support

支援プランの内容

- ・プチバイトの利用で今までにない職種を体験することで、本人の就労意欲や就労に対する姿勢を確認する。
- ・プチバイトの利用から雇用継続が可能か検討する。
- ・コミュニケーションが苦手であり、耳が聞こえにくいことを企業側に伝えようとして雇用をお願いしていく。

企業等の協力体制

- ・コミュニケーションが苦手なことについては、周りでフォローしながら本人の様子を伺ってもらう。
- ・本人の希望に沿った日数や時間で雇用してもらう。

企業等と連携して行った支援

- ・就労体験や振り返りの際に同行、同席をしながら、本人と企業とのすり合わせをし、本人の希望に沿った働き方での雇用となった。

企業等の意向や考え

- ・プチバイトを利用することで、本人の仕事に対する意欲や作業能力を把握したい。

連携した関係機関等

- ・医療機関・企業・ハローワーク・役場・社会福祉協議会



現在の様子

after

支援による自立の状況

プチバイトの利用から雇用となり、就労継続が出来ていたが、就労していた先が撤退することになってしまったため、仕事を続けることが出来なくなった。

就労時間を短縮して働いていたため、雇用保険の受給資格がなく、無収入となってしまった。生活福祉資金を借入れる前に、家計改善支援について説明するも拒否された。母親の遺族年金と本人の厚生年金を何とかやりくりして生活するという。

今後の支援方針

- ・本人に合う就労先を探していく。
- ・家計状況を確認していく。

支援の振り返り

check

就労が決まり社会福祉協議会が支援を継続することになったが、就労先がなくなったことで仕事を続けることが出来なくなり、家にいる生活に戻ってしまい、生活費が足りなくなってしまうようになった。その後の就労先が決まっていなかった。